

社会

出題の傾向

地理、歴史、公民の3分野から総合的に出題しています。形式的には各分野別に大問を設定しているように見えますが、各分野を総合的な面からとらえており、かたよった学習や単なる知識の断片の暗記に終わらず、総合社会として学習しているかどうかを確認できるよう出題しています。ただし、出題している内容は必須事項ですので、教科書や資料集などで基本事項を丁寧に整理し、そして総合的に内容を理解し、さらに正確に表現できるまでの受験準備を心がけてください。

2022 今年度の出題と解説

今年度の入学考査は、①日本地理、②世界地理、③歴史、④公民の順で出題しました。地理分野、歴史分野、公民分野ともに出題形式には大きな変化はなく、問い方や考え方は昨年とできるだけ同じ形式になるよう出題を心がけました。今年度の問題傾向と誤答例などについて、気づいた点を下記に分野別で示しておきます。

①日本地理

日本地理は、比較的解答しやすい問題であったように思います。そのため、正答率も全体的に高くよくできていました。正答率が低かった問題としては、まず問3の(2)の三角州を答える問題です。「下流では」という文章を見逃したのか、扇状地と答える誤答が目立ちました。

次に問6のユネスコ世界遺産に2021年に登録されたものの組み合わせを記号で選ぶ問題に関しては、組み合わせの中に2019年7月に登録された「百舌鳥・古市古墳群」を入れてしまっている誤答が多かったです。そして、問7の都道府県と県庁所在地が一致しないものを選ぶ問題では、F的那覇を選び忘れているのも目立ちました。基本的な問題なので、是非完答してほしい問題でした。問題文をよく見て、地図を端まで見る習慣をつけてほしいです。また雨温図に関しては、日本地理・世界地理に関わらず毎年出題されることが多いので学習しておくといいでしょう。

②世界地理

出題傾向としては、各国の地理的な特徴を〔表〕

から読み取り、その国の場所、更にその国の様子を一致させる問題でした。解き方としては、まず〔説明文〕を読んで4つの国を導き、地図を見てその国を結びつけた後、〔表〕を読み取り各国の特色の中からヒントになる項目に注意し、その項目の数値に近いものより、空欄の国を特定するという手順で解答していく手法が有効です。今後も、1つのテーマ〔農牧業・資源（林水産・エネルギー・鉱物）・工業製品など〕について、教科書で学んだ基本事項を地図や地図帳の表・資料などと照らし合わせて総合的にまとめていく学習法が有効です。今回の問題では、特に(う)の正答率が低かったです。

(う)の示す国は、カカオ豆・コーヒー豆の産出量が多い事から、熱帯あたりに注目します。また、〔説明文〕の①にある「1945年にオランダより独立」と「天然ゴムの生産量は世界2位」「日本へも大量に輸出している」「イスラム教徒」などのキーワードからインドネシアを導きだしてほしい問題でした。説明文を選ぶことはできていましたが、地図上で、アルゼンチンを選んでいる誤答が多くみられました。例えば、(あ)の示す国が、最初分からないとしても、まず説明文を読み、〔説明文〕の②と〔地図〕のAがセットであることを導き出してから、他の(い)～(え)を解答した後に残ったこのセットを(あ)の答えとする方法もあります。問2は、毎年出題されている時差を求める問題でした。例年通りの正答率でしたが、計算ミスや月日と午前・午後を書き忘れるミスの答えもあり、対策はしておきましょう。

③歴史分野

今年度は、古代から現代の歴史までをA～Jの各文で幅広く出題しました。問われた内容のほとんどが歴史上の人物や重要用語であり、比較的よく出来ていました。しかし、記述問題では漢字の間違いが目立ちました。誤答例として、問1(1)の「貝塚」の「貝」がきちんと書けていない。また「具」も多かったです。問1(2)の「推古」を「堆」「唯」と間違えたり、問1(4)の「太政大臣」を「征夷大將軍」と間違えたり、問1(5)の「フビライ=ハン」を「チングス=ハン」と間違える誤答が見受けられました。問6に2つの文章の正誤の組み合わせを選ぶ問題が採用されています。このような正誤の組み合わせを選ぶ問題では、問題をしっかりと読んでいけば、「誤・誤」であることがわかったはずですが、「正・誤」もしくは「誤・正」を選ぶ間違いが多くみられました。

しっかりと問題を読むことと、見直しは最後まで行いましょう。例年ですが文化史・世界史・近現代史を苦手とする受験生が多いように感じます。今後もこういった受験生が苦手とする分野の出題はありますので、古代から現代までをまんべんなく学習するように心掛けてください。また、高得点をとるためには、日本史・世界史の各時代の内容整理(政治史・文化史)とともに、学習し理解した内容を、必ず漢字で正確に表現できるよう日頃から心がけて学

習を進めておきましょう。今後もこの形式の出題は続きますので、問題をしっかりと読むように心掛けましょう。

④公民分野

今年度も、新聞の社説からの出題でした。全般にはよく出来ていました。正答率の低い問題として、問1の2つの文章の正誤の組み合わせを選ぶ問題ですが、Aの文章「国事行為を国会の助言と承認により行います。」の誤った文章(正しくは国会でなく内閣である)を見落とし「正・正」と答えている誤答が多かったです。また問5の「社会保険」に関して、「検」と書く漢字ミスがやや目立ちました。同じく問9の「小選挙区」に関して「少」と漢字ミスがあったので注意してほしいところです。問10は、文章をしっかりと読まなければ解けない問題となっています。社会保障や国際組織、時事的な問題についても基本的な事項をしっかりと押さえておく必要があります。また、例年経済・金融分野の問題もよく出題しています。このような問題に対応するためには、近年の国内、国際面でのニュースに常に関心を持ち、教科書の基本事項を理解し、正確に表現・選択できるよう日頃から心がけて学習しておきましょう。

対策と アドバイス

今年度の入試は、①日本地理、②世界地理、③歴史、④公民の大問の出題でした。この出題形式は来年度も継続する予定です。多少出題傾向は変化するかもしれませんが、教科書や資料集などを中心とした出題に変化はありません。今後も基本問題を中心に
出題していきますが、「基本」は決して簡単というわけではありません。単なる暗記で対応できる問題だけではなく、理解をしているかどうか
に重点をおいた出題を常に心がけています。まず①日本地理では、地図、都道府県の農牧林水産業や工業の様子などを理解しておきましょう。②世界地理では、地図、世界の国々・地域の特徴などを理解しておきましょう。また、時差の計算はできるようになっておきましょう。地理分野では、統計・グラフ等は必ずチェックしておいてください。③歴史では、教科書や資料集などにのっている歴史的な作品や図・資料は必ずチェックしておいてください。④公民では、最近の出来事にも関心を持ち、日頃から新聞の記事などに興味をもつことが重要です。

また今年の出題では、2つの文章の正誤の組み合わせを選ぶ問題が採用されています。このような正誤の組み合わせを選ぶ問題では、形が少し違うだけと考えると、問題をしっかりと読み、自信を持って答えれば、的確に選べるはず
です。

どの分野においても、教科書・資料集などで基本事項をしっかりと整理し理解を深めておくことができれば、高得点をとる事ができるでしょう。